

最優秀賞（山口県知事賞） ポポメリー

代表者 藤本 育栄（くらしづくり分野／山口市）

活動の動機

看護師である自分が乳がんを経験した折、様々な支援が当事者に届かないことを痛感。正しい情報を当事者や家族に伝えたい、当事者の心に寄り添う看護師でありたいと感じた。ポポはたんぽぽのポポ、メリーは素敵な笑顔からとった造語。身近に咲くみんなに好まれる花が風に運ばれてあなたの笑顔に繋がるように名付けた。

活動の目的

現在、がんにかかる可能性は2人に1人とされている。山口県はがん検診受診率が全国最下位でありがんに対する正しい理解と知識を身につけることが重要。地域のなかで医療福祉を学ぶ機会があると、がん予防、がん医療、がんとの共生が理解でき、がん患者を取り巻く支援体制も整う。がん患者や家族だけでなくがんに関心のあるすべての人と、がんになっても前向きに自分らしく生きられる社会をめざす。

活動の内容

- ①「がん患者とがんに向き合う人の交流の場を提供する」ことを目的に相談支援の場を設けている
 - ・リアル座談会/第1日曜日、オンライン座談会/第3木曜日 20時～と第4水曜日 10時～
 - がんと診断された人、これからの治療のことなど同じ境遇の人同士で話すことでほんの少しでも気持ちが軽くなることもある
- ②「がん経験を活かすための学びの場を提供する」ことを目的に地域のなかで啓発活動を行う
 - ・2023/9/10 がん征圧月間に、市民公開講座と展示会「がん晴るフェア」を開催
- ③「会員等の交流や学びの場を通じて得た知見を地域社会に繋げる」ことを目的にがん患者が患者力をつけピアサポートを充実する
- ④その他
 - ・がん情報ギフト(冊子)を図書館に寄付
 - ・マスコットキャラクター、がん検診のがん啓発推進グッズ開発
 - ・入浴着普及、ウィッグの譲渡、ヘアドネーション推進
 - ・がん教育外部講師育成 など

これからめざしたいこと

ピアサポーターの育成によりピアサポート体制を整えてがん患者支援の促進を図る。がん患者が自分自身の状況をみつめて、社会の中で過ごせるように社会的資源と行政を含めた医療機関との連携を図る。第4期がん対策推進基本計画「誰一人取り残さないがん対策を推進し、すべての国民とがんの克服を目指す」がんになっても安心できる山口県となるように、一人でも多くの人に検診の大切さを伝えること、いのちを大切にすること、共にできることを考え、伝えていきたい。



啓発活動でのがんに関する掲示



ウィッグやQOL 向上用品の展示

優秀賞（朝日新聞社賞）

MagMura∞

代表者 河村 麻美（子育て分野／宇部市）

活動の目的

「お母さんが笑顔になると子どもも笑顔になる」を基本に考え子どもの成長の喜びを母親や父親と共有し、保護者自身の主体性や自己決定を尊重しながら「ママが笑顔で子育て」を目的に、自然豊かな宇部市の万倉（まぐら）地域を拠点として外遊びを主体にした子育て支援活動を行う。

活動の内容

①自然の中でのびのび体験活動

- ・未就園児の活動日：万倉の拠点を開放。野山を駆け回ったり、絵の具を使ったお絵かきや芋ほり、小麦粉粘土等自由に過ごす。
- ・出張活動日：地域の公園に、おもちゃや遊び道具を持参して出かける。おもちゃに惹かれて、親子が集まってきておしゃべりが始まる。
- ・ベビMag 定期クラス：ベビーマッサージや手形足形など、赤ちゃん連れのママが楽しめる企画を盛り込んで活動。
- ・小学生対象サブスク：子どもたちのやってみたいこと、アウトドア体験を中心に年間登録し活動。
- ・多胎児事業：市の委託事業として、月に2回、交流会や相談会を開き、多胎児育児家庭の支援を行う。また、子どもたちと遊びながらお母さんにリフレッシュしてもらう時間も提供している。
- ・土、日イベント：野外でピザづくりや縁日、わらびとりなど、親子で楽しめるイベントを企画。



Happy ハロウィン♪

②日々頑張っている母親向けに多くの「ママ笑顔応援企画」

- ・おしゃべり会～はじめての育児 mama 集まれ～スイーツ付き・クッキング教室開催「夏にぴったりおやつクッキング」「主婦の味方！ストック料理クッキング」
- ・骨盤調整ヨガ体験 子連れでどうぞ 等



小学生サブスク(´▽`)

③親同士の交流

- ・MagMura∞オープンチャットを開設
入退室自由で、話したいことをいつでも、どこからでもLINEで話せる。お悩み解決には至らなくても誰かに聞いてもらうことで落ち着く。
- ・子どもに困り感を持っている親同士の話せる場を、対面やzoomで開催

これからめざしたいこと

子育てで困っているママ、どこに相談していいのかわからないママ、ストレスいっぱいのママたちに、「私たちがいるよ」と伝えたい。また、現在の外遊びの拠点を活かして、親子でも、子どもだけでも自然の中でしっかり体を使って遊んでほしい。

- ・子育てに悩んでいるママの拠り所になる
- ・困ったときはMagMura∞！と思ってもらえるような活動を広げる
- ・子育ての119になるような存在

優秀賞（y a b 山口朝日放送賞）

特定非営利活動法人 iCom

代表者 神代 ちよみ（福祉分野／宇部市）

活動の目的

アルコールをはじめとする依存症および大人の発達障がいやハンディのある方に対して自らの回復のための支援をし、社会参加及び社会復帰を促すとともに、家族や親族ばかりでなく周囲の人などへ病気の本質を伝え支援していく。また、地域住民への教育、相談、啓発活動など幅広く保健、社会福祉の向上に寄与することを目的とする。



山大実習風景

活動の内容

iCom～愛込～iは「私」と「愛」Comは「コミュニティ」と「込める」というように、掛詞を用いて、私たちの希望と意思を含みつつ名付けた。私たちは、アルコール・ギャンブル・薬物等の依存にとらわれてしまった方々が、社会の中で自分らしく生きていくために、その方の家族や親しい方々と一緒に共に考え活動している。

①「iCom 分ち愛」開催

依存症の方々を中心とした回復のための会。
必要と考えれば、専門機関等の紹介につなげる。

②「特定指定相談事業心音（ココロネ）」

依存症の方々とそれに伴う大人の発達障がいの方々を主に対象とした相談支援事業。
家族や周りの方の協力のもと、本人を取り巻く周りの方々からの悩みにも耳を傾けるべく個別相談や家族相談も行っている。



アウトリーチ活動

③イベントでの啓発活動

④農園作業

⑤社会貢献活動

山口大学医学部保健学科看護学先行実習で学生を対象に、依存症やそれに伴う発達障がいについて講演

これからめざしたいこと

アルコールやネット依存の増加をはじめとし、コロナ禍に依存してしまった方々は、コロナが去った今も社会に戻れず、取り残されたままで、心の後遺症や爪痕は確実に残している。だれ一人とりこぼすことなく社会からはぐれることのないよう啓発活動を行い、飲まないだけ、やらないだけ、断つだけ、我慢などで解決するほど単純でないこの依存症という病識を一般の方にも理解してもらえるよう努めていきたい。

当事者には様々な活動を通して達成感を味わい、社会の居場所を見つけ、仲間と一緒に生きる楽しさを知ってもらうために継続して取り組んでいきたい。

優秀賞（山口新聞社賞） 山口県災害看護研究会

代表者 網木 政江（地域づくり分野／宇部市）

活動の目的

災害看護に高い関心を持つ看護職(看護師・保健師・助産婦)及び看護師以外の有資格者(介護支援専門員・防災士等)で構成されるボランティア団体。看護の専門性を生かした減災活動を行い、災害に強く優しいまちづくりに寄与する。災害発生時には健康被害の拡大を防止し、被災された方々が早く日常を取り戻せるよう関係組織や団体と連携・協働し支援活動を行う。

活動の内容

- ①地域のイベントでは「災害の備え」をテーマとした体験型ブースを設置するなどして、楽しみながら防災に触れてもらい、防災意識向上の啓発活動を行っている。
- ②災害ボランティア育成研修を行い、次世代を担う人材育成にも力を入れている。ボランティアに行ってみたくて何の予備知識もなく行くのは不安だという老若男女の一般参加もある。また、ボランティアとして駆けつけるだけでなく、ボランティアを受け入れる側としての研修も行う。
- ③まちの減災ナース育成にも積極的に取り組み、次世代のメンバーを増やす。※「まちの減災ナース」看護職自身が生活する地域で、地域の様々な立場の人と共に看護の専門性を生かして減災活動に取り組む。又、災害発生時においても地域住民の健康と生活を支援する役割を担う。
- ④山口県内や近隣県で災害が発生し支援ニーズがあるときは、「山口災害看護チーム（Yamaguchi Disaster Nursing Team：YDNT）」として支援活動を行っている。これまでの主な災害支援活動は以下の通り。

- ・2016年熊本地震／病院及び社会福祉施設で、被災されたスタッフの負担軽減のため、スタッフに代わって患者さんや利用者さんのケアを行った。
- ・2018年西日本豪雨／岩国市社協災害ボランティアセンター周東支部へ救護班を派遣。災害ボランティアの健康管理。
- ・2023年山口県大雨災害／美祢市災害ボランティアとして、どこよりもいち早く救護班を派遣。美祢市保健師と連携し、被災宅への戸別訪問及び災害ボランティアの健康管理。

これからめざしたいこと

今後も災害が多発すると考えられ、南海トラフ巨大地震の発生も危惧されている。「災害時」を特別と考えるのではなく、フェーズフリー(非常時だけでなく、日常でも同じように)の防災・減災の考え方が普及するように地域に密着した防災・減災活動を続け、災害に強く、人に優しいまちづくりに寄与したい。



きららでキラリ！県民つながる
フェスタ TSUNA FES2023



災害ボランティア育成研修での実演

コープやまぐち奨励賞 「プレーパークを山口に」実行委員会

代表者 臼井 裕貴子（子育て分野／山口市）

活動の目的

近年子どもの遊ぶ時間、遊ぶ場所、遊ぶ仲間が減少し、子どもたちが外で遊ぶ姿がめっきり減っている。本来子どもは屋外で自由に思いきり遊ぶことで、充実感や達成感を得、生きる力を育んでいく。そこで、子どもたちにはできるだけ禁止をなくした場所で子ども自身がやりたい遊びを見つけて遊べる場所＝プレーパークが必要と考え、活動を始めた。山口市にプレーリーダーの常駐するプレーパークを設置することを目指している。



火を囲んであそぼうパン焼き😊

活動の内容

① 「いちにちプレーパーク」の開催

2019年5月～2023年9月まで5年にわたり、月に1回の「いちにちプレーパーク」を山口市内の公園や神社で開催してきた。土や水のアソビ、たき火、ロープアソビ、絵の具アソビ、木工、ままごと、虫さがし、そのほか手作りの遊び道具で、子どもたちがやってみたくて楽しんでいる。



コマまわし

② 講演会、学習会の開催

年に1回、専門家を招いて講演会や学習会、交流会を開催し、市民に向けてプレーパークへの理解を広げるいっぽう、プレーリーダーの育成を図っている。

③ 2021年5月、山口市長あてに「山口市にプレーリーダーのいるプレーパークを常設してほしい」という要望書と7,385筆の市民の署名を提出。以後も市への働きかけを続けている。

④ HPなどでボランティアを募集し、プレーパークに関わる大人を増やす努力をしている。昨今は、学生ボランティアも増えている。

活動の成果

子どもたちは遊ぶ中で「いいこと考えた！」と目を輝かせて創作したり、「やってみる！」とチャレンジしたり、「一緒にやらない？」と知らない子を誘う姿が見られる。子どもたちは遊びを通して、さまざまな発見や達成感、よろこびを得、自己肯定感へつなげていると感じる。日頃は閑散としている公園が、プレーパーク開催によって活気づくことは、これからも子育てに寛容でゆたかなコミュニティにつながっていくと思われる。

これからめざしたいこと

引き続きプレーパーク設置の要望を山口市に働きかけていく。いちにちプレーパークをはじめ、講演会・学習会などの開催で、子ども時代の遊びが子どもにとって必要不可欠と考える社会をめざしたい。地域にプレーパークができることで子どもにとってもおとなにとってもよりゆたかなコミュニティを築いていくことができればと考えている。

コープやまぐち奨励賞 長門手話友の会

代表者 植村 明仁（福祉分野／長門市）

活動の動機・目的

50年前の設立時メンバーがおらず明確なきっかけは不明ながら、記憶によると40年前には、すでに公立高校の先生を中心とした手話講習会などのサークル活動が行われていた。メンバーや形式を変えながらも、同じ時間・同じ場所で、手話学習、聴覚障害者とのコミュニケーション、手話の啓蒙等を目的とした活動を続けている。



夏休み手話教室

活動の内容

① 定例会

手話学習や聴覚障害者とのコミュニケーションに力を入れる一方で、手話の技術は問題とせず、会員が趣味を披露したり、脳トレをしたりお楽しみ要素も取り入れている。どうやったら伝えられるのか、一緒に楽しむことができるのかお互い考えながら会をすすめている。

② 聴々サロン(ちょうちょうサロン)

令和元年より、月に1回長門社協との共同で、聴覚障害者との交流を目的としたサロンを開催。お花見や映画など戸外での活動も楽しむ。

③ 手話指導

・夏休み手話教室の開催

夏休みに3回にわたって開催。手話で自己紹介をしたり、手話歌などを学ぶ。ここで手話に触れた子どもたちが、親と一緒に定例会を訪れ、入会することもある。



令和5年湯本盆踊り大会 3位受賞

コロナ禍も人数制限、フェイスシールド着用等、工夫しながら継続して開催。

・学校授業

年に1回、学校の授業の中で小学校4年生への福祉教育として、手話の指導を行っている。

④ 地域行事への積極的な参加

毎年、地元のお祭りへ参加し、仮装など準備段階から一致団結して全力で楽しんでいる。

活動の成果

50年間の会の歴史の中で、これまでに長門手話友の会を通して行った人は小学生から80歳代までの幅広い年齢の方、累計1000人。困ったことを会員同士相談したり助け合ったり、得意の手料理をふるまったりと会員同士の絆も深まっていく。聞こえない人や女性、男性、子ども、高齢者など、様々な人がいる中で、どうすれば皆が同じように楽しめるか考えることを大切にしている。

これからめざしたいこと

「みんな違ってみんないい」をモットーに、これからも“その時間にその場所に行けばいつでも変わらず迎えられる”場所をめざして末永く活動を続けていきたい。

コープやまぐち組合員賞 虹の猫仲間&山口ひかり TNR 実行委員会

代表者 三浦 恵美 (地域づくり分野/光市)

活動の背景

猫の放し飼いや多頭飼育、無責任な餌やりによるトラブル。猫の糞や発情期の鳴き声で困っている、という事で、住民同士のいがみ合いが起こり、地域コミュニティが崩壊(当事者の孤立)にまでなっている地域もある。猫の保護、里親につなぐ活動も各地の動物愛護団体により取り組まれているが、猫の繁殖能力のほうが勝っている現状では、保護活動をしている人が多頭飼育状態になり身動きが取れなくなっている。



活動の目的

「Trap(捕獲)、Neuter(不妊手術)、Return(元の場所に戻す)」の頭文字をとったTNR活動は、現状における最善策。

- ・外で暮らす猫が今以上増えないように、不妊去勢手術を施して住んでいた場所に戻し、飼い主や餌やり、地域の方にマナーを守ったお世話をしてもらい、その猫の一代限りの命を見守る「TNR先行型地域猫」を推進
- ・多頭飼育者や餌やり問題で孤立している人と地域住民をつなぎ人にも猫にも優しい地域になることを願う

TNR一斉事業 術前エリア
で手術を待つ猫たち

活動の内容

- ① TNR活動の相談対応と光市内でのTNR一斉事業の開催、また協力医療機関へ手術する猫の搬送。術後の猫は耳先をV字にカット(さくら耳)して一目で手術済みとわかる印をつける。また、めったに医療行為を受けられない猫のために、手術と同時に、3種ワクチン接種、ケガ等の治療も行う。2024年1月現在、不妊去勢手術数1,027頭。



啓発看板架け替えに立ち会う

- ② 不妊去勢手術後の猫が暮らす地域の生活環境に配慮した、マナーを守ったお世話の仕方のアドバイスと、地域住民の理解と協力を得るための話し合いや独自に作成した啓発チラシの配布。
- ③ 手術後リターン出来なかったさくら耳の保護猫のお見合い会を開催。お見合い会では猫の飼育やTNRに関する相談対応もしている。
- ④ 行政への働きかけ。(これにより、光市は「餌やりするな」から「餌やりするならマナーを守って」に、地域に建てる看板の表記が変更された)

これからめざしたいこと

現状どこの保護団体もキャパシティを越えており綱渡りのような状態で、後継者問題も含め問題は山積しているなか、TNRの考え方や方法を伝え、地域住民と一緒に取り組みながら、私もできるという人を増やしていくことが大切だと考えている。また餌やりをする人は、地域と疎遠な高齢者や独居の人が多く、猫だけのための活動ではなく、独居者の孤立、高齢者問題なども絡んだ『地

域課題』であると行政にも認識していただき、協働で取り組んでいけるようになりたい。

コープやまぐち組合員賞 音声訳ボランティア小郡やまびこの会

代表者 長手 幸江（福祉分野／山口市）

活動の動機・目的

視覚に障害のある方々に市報や地域情報誌をテープ録音やCD録音をして届けたい。目が不自由な方にも情報が耳から入ることで生活の役に立ててもらおうことを目的としている。50年の歴史がある。

活動の内容

① 月に2回の市報、隔月に地域情報紙とララメール、2か月に1回の社協だより、年4回の市議だより、きずなを録音して、目の不自由な方へ発送。現在、CDや録音テープを届けている利用者は小郡在住者11人。要望があれば、小郡以外の人にも対応する。



録音の様子

② 年に1回、利用者さんとの交流会を継続して行っている。

当会が行っている日頃の音訳活動への要望や感謝が伝え

られるほか、視覚障害者が生活していく上での困っていることや思いを交流している。「駅のタッチパネルでは切符が買えない」「白杖を使ったSOSのサインを知らない人が多い。高齢者や妊婦さんなど弱者のSOSサインが世の中に広がってほしい」「相変わらず、盲導犬の入店拒否は経験する。補助犬法の周知を自分たち自身でも取り組んでいきたい」など、交流会で出された意見は、ボランティア協議会等へ繋いでいく。

意見交換後は、利用者のかたがたと、ギターや三線、オカリナ演奏を楽しむ。

③ 年1回、音訳の活動に興味のある人を募集し、実際にパソコンを用いて録音作業に取り組み自分の声を聞く体験会を行っている。体験会に参加した人たちが、少しずつ入会し、会の若返りとなっている。



録音したものを編集する作業

これからめざしたいこと

会員の年齢層には幅があるが、若い方に新しいことを教えてもらったり、ベテランが助けたり、遠慮なく自分の思いや考えを話し合いながら、次につなげるようにコミュニケーションをとって活動している。

現会員半数が仕事を持っているが、少しの自分の時間を利用して、ボランティア活動に取り組んでいる。利用者の方のお役に立てるよう、また自分たちも活動する喜びを持てるような会が続くことを願っている。

コープやまぐち組合員賞 ちびっこアート labo

代表者 西 翠（子育て分野／下関市）

活動の動機・目的

「子育て広場まーむ」を利用していたママ同士、未就園児(0.1.2歳児)に絵を描く体験をさせたいと、画家で高校教師の指導の下ちびっこアート labo を発足。

アートを通して母親同士・母と子・子ども同士が交流し、子どもたちの心身ともに調和のとれた発達を目指し活動を行う。また、定期的に絵を展示し、絵画を通して乳幼児の活動を様々な世代の人に知ってもらおう活動も行っている。



活動の内容

① 子どもの絵画活動

月に1回、大きな大きな紙に絵の具を使って自由に描く。夏は外で絵の具遊び。冬は白い雪の上に絵の具を垂らすなど、季節感を取り入れた活動もある。基本的には、筆や絵の具、紙を使って自由に描く。保護者は口出しをしないことが大前提で、子どものサポーターに徹する。

家庭では自由に絵の具を使わせられないことが多く、みんなで一緒にできる活動は親にとっても貴重な活動。

クリスマスツリー 🌲

② 「絵のはじまりの絵」の展覧会を開催

1回目：2019年「下関大丸」と「絵本専門店子どもの広場

」で絵の展示、出張ちびっこアート labo で一般参加を集つ

て絵画活動を実施。

2回目：2022年 下関市立美術館で展示

出展者数 52組 163枚 来場者延べ 423人



③ 通信発行 活動内容や代表による豆知識を掲載し活動日に

配布

活動の成果

これまで落書きと思って捨ててしまっていた絵は、子どもが成長する過程の貴重な絵だったことを知ることができた。当初は、絵が上手

絵の具を感じる2歳児

になることや、早く顔が描けるといいなと成果を求めていたが、落書きだと思っていた絵がまる（○）になり、顔になっていく変化に気づき、偶然できた形に驚き、「頭足人（とうそくじん）」という、成長過程で現れる絵があることを知ってその形を見た時の絵に感動した。

これからめざしたいこと

「絵のはじまりの絵」の展覧会を今後も様々な場所で実施し、小さな子どもの絵の大切さを伝えていきたい。展覧会を訪れた人が「上手に描いている絵ではなく、のびのびと色を広げていてとて

も素敵」と喜んでくださった。多くの方に見ていただき、知っていただくチャンスとしたい。

3歳までの子育ては、一人では負担が大きく、当会で絵を通した仲間ができたことはとても心強く感じている。ママ同士のつながりの場としても継続していきたい。